豊田通商グループ　会社説明会

2023年1月12日-31日
豊田通商株式会社
（証券コード 8015）

目次

Ⅰ． 会社概要～豊田通商とは～

Ⅱ． 業績推移

Ⅲ． 当社の重点戦略

Ⅳ． 株主還元方針

目次

Ⅰ．会社概要～豊田通商とは～

Ⅱ．業績推移

Ⅲ．当社の重点戦略

Ⅳ．株主還元方針

数字で見る豊田通商

豊田通商株式会社 （証券コード8015） 2022年3月末時点

設立
1948年

主要株主
トヨタ自動車
21.69%

連結従業員数
約65,000名

グローバル
ネットワーク
約130カ国

Be the Right ONE

連結関係会社数
国内外合わせて
約1,000社

22/3期
当期利益
2,222億円
過去最高益更新

株式
時価総額
約1.8兆円

１株当たり配当金
@160円
12期連続増配

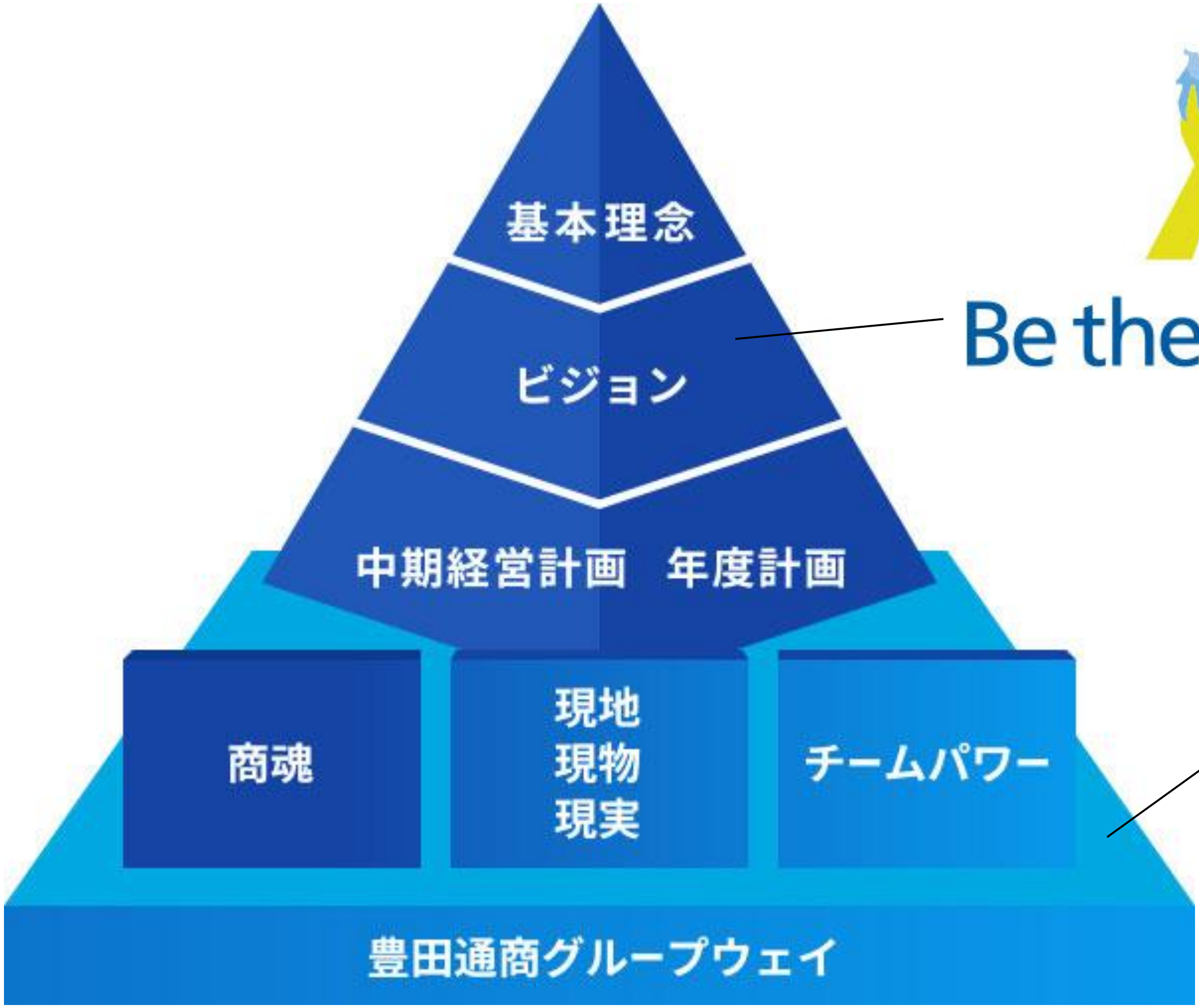
豊田通商とは

営業本部		自動車	自動車以外
金属	自動車鋼材、金属製品、非鉄金属、金属資源		
グローバル部品 ・ロジスティクス	自動車構成部品、物流事業、タイヤ組付け		
自動車	自動車等(二輪車、トラック、バス含)輸出・小売、販売周辺		
機械・エネルギー ・プラントプロジェクト	車輌生産設備、エネルギー、プラント、各種機械		
化学品 ・エレクトロニクス	化学品、合成樹脂、エレクトロニクス		
食料・生活産業	穀物、食品、保険、アパレル関連、介護・医療用品		
アフリカ	自動車、ヘルスケア、消費財・生活産業、テクノロジー＆エネルギー		

豊田通商とは

Global Vision

Be the Right ONE



ビジョン達成に向け、
役職員が共有すべき
価値観・行動原則

豊田通商らしさの実践

Be the Right ONE
５つのワーキンググループ
RdRE
RdBT
RdHY
RdCE
RdEoL
カーボンニュートラルの取り組み
築き上げてきた競争優位性
ネクスト
モビリティ
再生可能
エネルギー
アフリカ
循環型静脈
経営の土台：豊田通商らしさ
豊田通商グループウェイ
商魂
現地　現物　現実
チームパワー

「トヨタグループ」×「商社」のＤＮＡ

・安全とコンプライアンス

・サプライチェーンを守り抜く

・強い個・強い組織

・リーンな経営の追求

経営の土台：豊田通商らしさ

豊田通商グループウェイ

商魂	現地　現物　現実	チームパワー

目次

Ⅰ．会社概要～豊田通商とは～

Ⅱ．業績推移

Ⅲ．当社の重点戦略

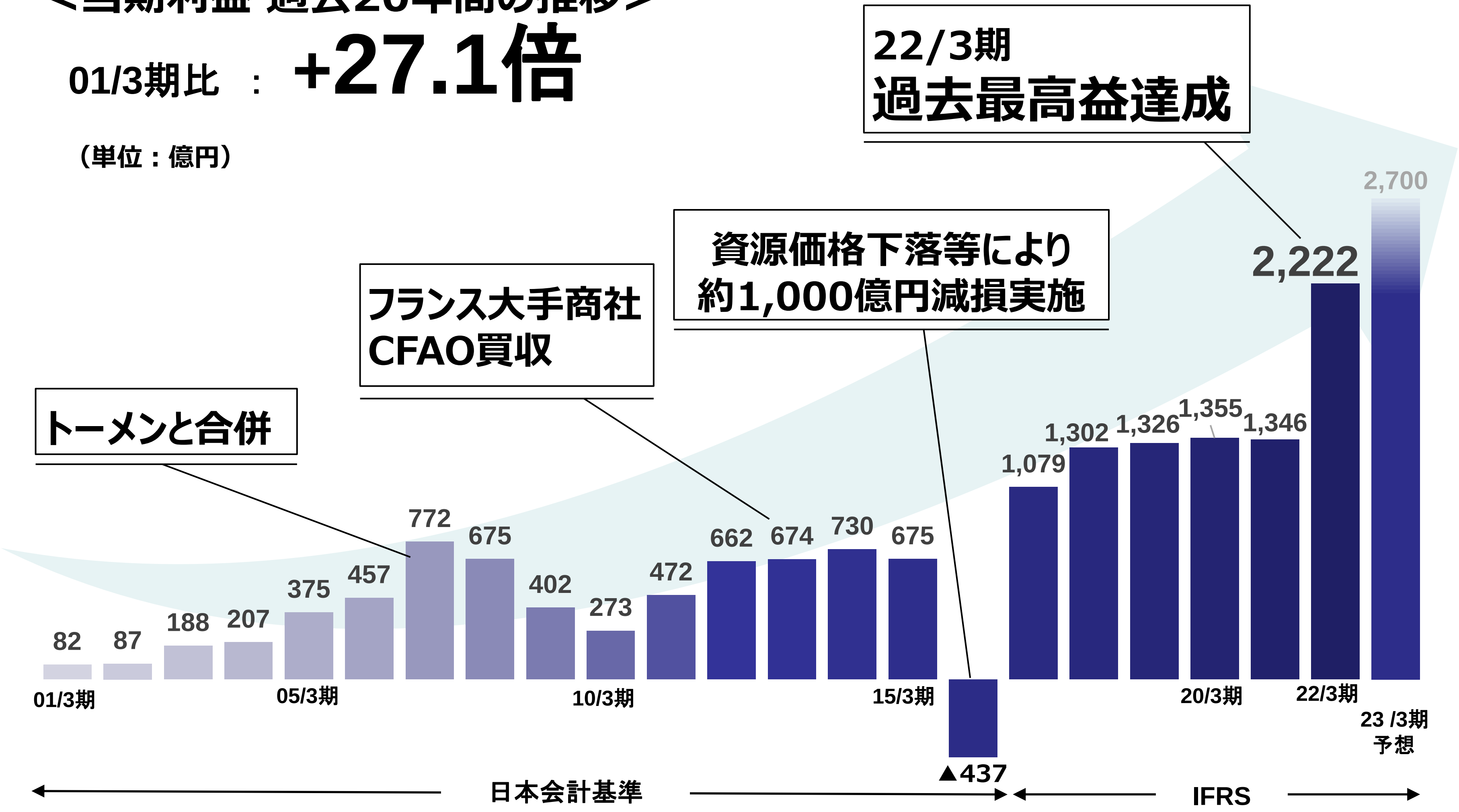
Ⅳ．株主還元方針

業績推移

<当期利益 過去20年間の推移>

01/3期比 ： **+27.1倍**

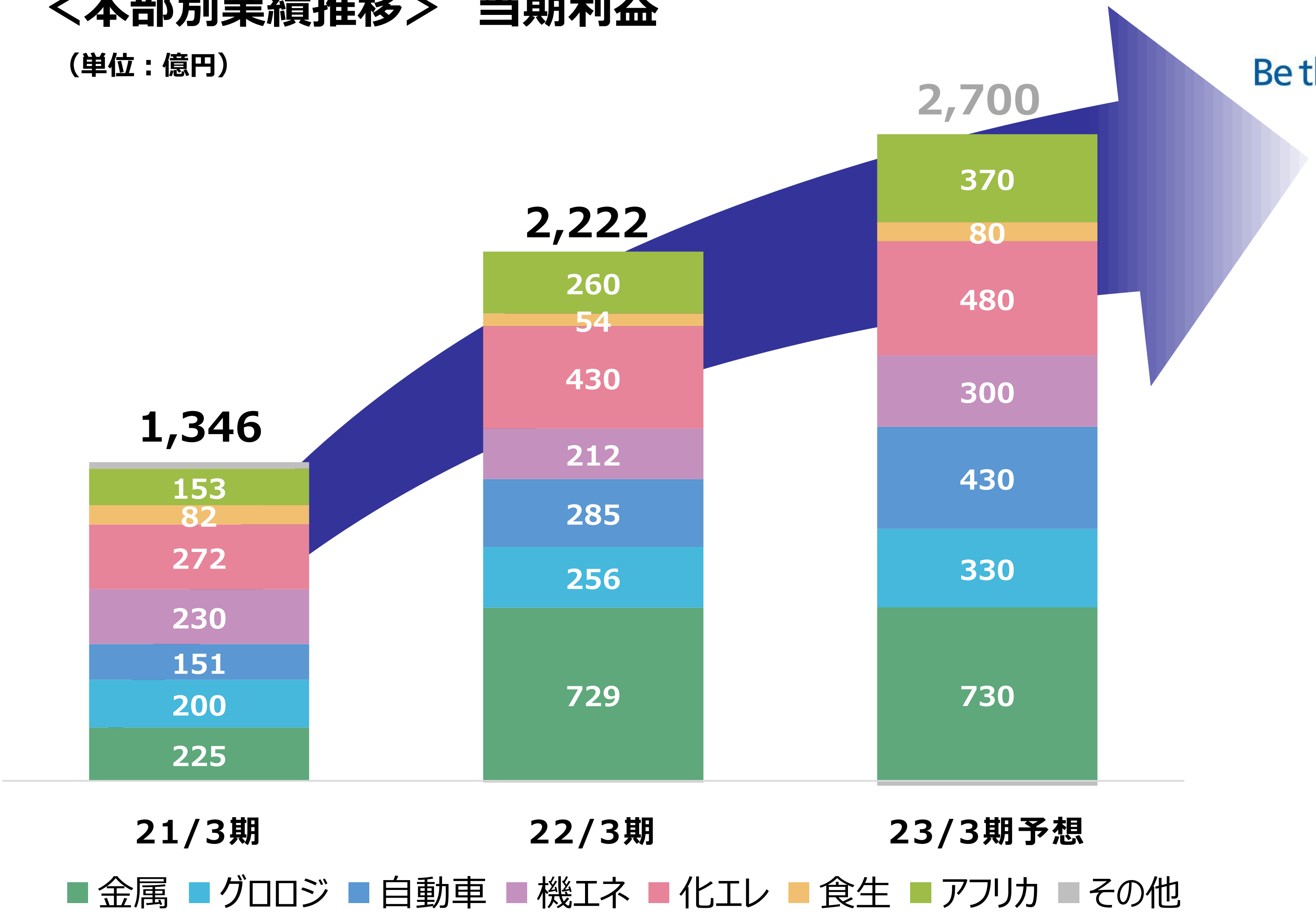
（単位：億円）



進化を積み上げ、「次の新しいステージ」へ

＜本部別業績推移＞　当期利益

（単位：億円）



目次

Ⅰ. 会社概要～豊田通商とは～

Ⅱ. 業績推移

Ⅲ. 当社の重点戦略

Ⅳ. 株主還元方針

当社の重点戦略

Be the Right ONE

５つのワーキンググループ

RdRE RdBT RdHY RdCE RdEoL

カーボンニュートラルの取り組み

築き上げてきた競争優位性

ネクスト モビリティ

再生可能 エネルギー

アフリカ

循環型静脈

経営の土台：豊田通商らしさ

豊田通商グループウェイ

商魂

現地　現物　現実

チームパワー

当社の重点戦略

Be the Right ONE

5つのワーキンググループ

RdRE　RdBT　RdHY　RdCE　RdEoL

カーボンニュートラルの取り組み

築き上げてきた競争優位性

- ネクスト モビリティ
- 再生可能 エネルギー
- アフリカ
- 循環型静脈

経営の土台：豊田通商らしさ

豊田通商グループウェイ

商魂　現地 現物 現実　チームパワー

当社の重点戦略

築き上げてきた競争優位性

ネクストモビリティ

自動車ビジネスにおける
知見とネットワーク

再生可能エネルギー

再生可能エネルギー
事業への
長年の取り組み

アフリカ

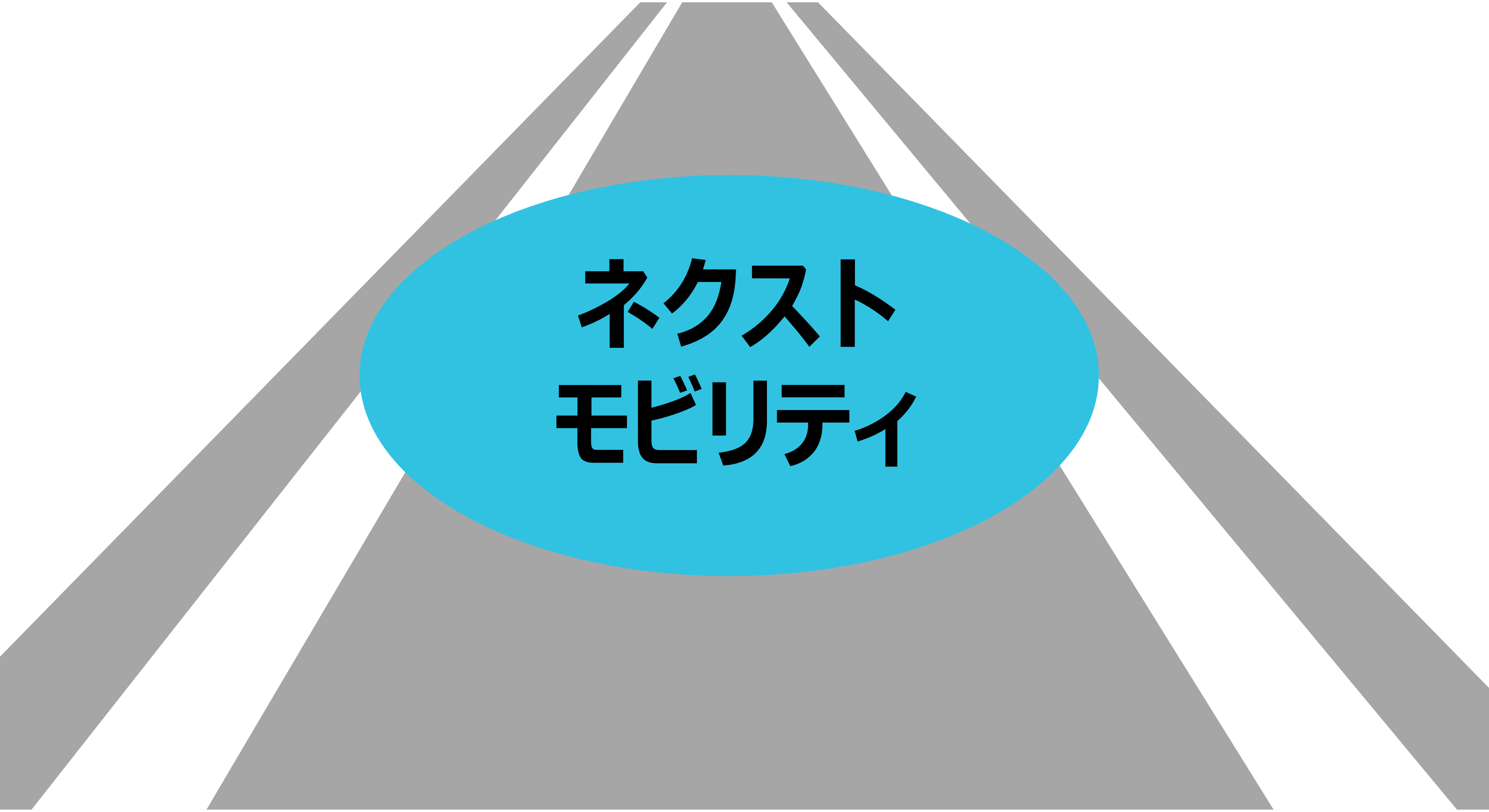
アフリカ全土に
わたるネットワーク
とプレゼンス

循環型静脈

長年かけて築いた
幅広い
リサイクル事業基盤

当社の重点戦略

Be the Right ONE



ネクストモビリティ

EV増加を見据えた、電池サプライチェーンでの事業領域拡大

原材料・部材加工 → 電池製造

Sales de Jujuy

アルゼンチン　オラロス塩湖

電池需要に応え、原料となる
炭酸リチウムを**増産**

豊通リチウム

福島県楢葉町

日本初
水酸化リチウム供給開始

北米電池製造会社
TBMNCへ追加投資

2021年10月出資済
(HEV用※)に加え
今後のBEV※車の
需要拡大へ対応
2025年生産開始予定

※HEV（Hybrid Electric Vehicle）・・・ハイブリッド自動車
BEV（Battery Electric Vehicle）・・・(バッテリー式)電気自動車

当社の重点戦略

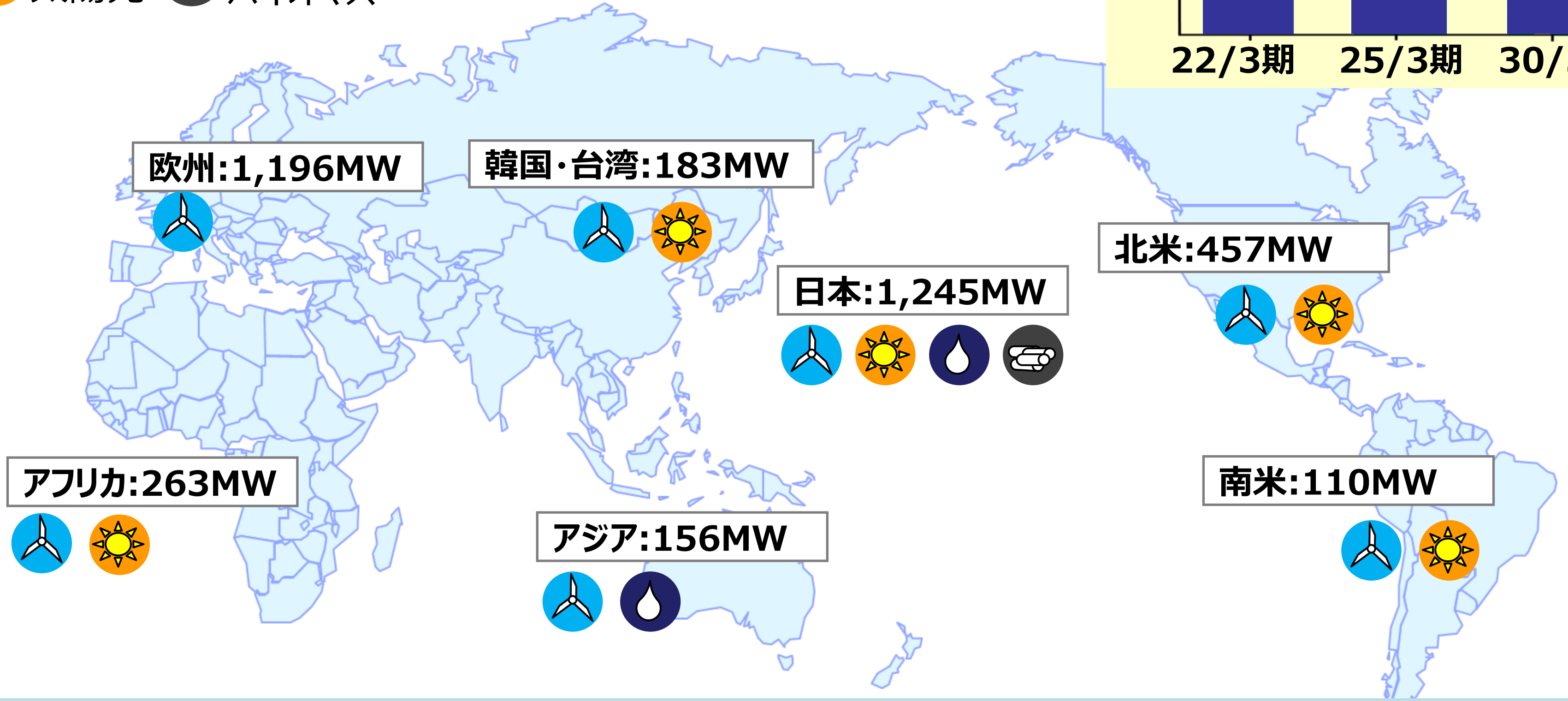
Be the Right ONE

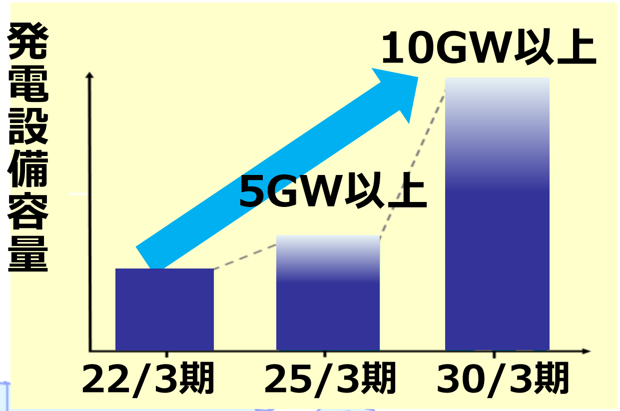
再生可能
エネルギー

再生可能エネルギー

再生可能エネルギー戦略　～地域別戦略マップ～

風力　水力
太陽光　バイオマス





合計　3,610MW = 原子力発電 3基分相当(2022年3月末)

再生可能エネルギー

ユーラス宗谷岬ウインドファーム(北海道)

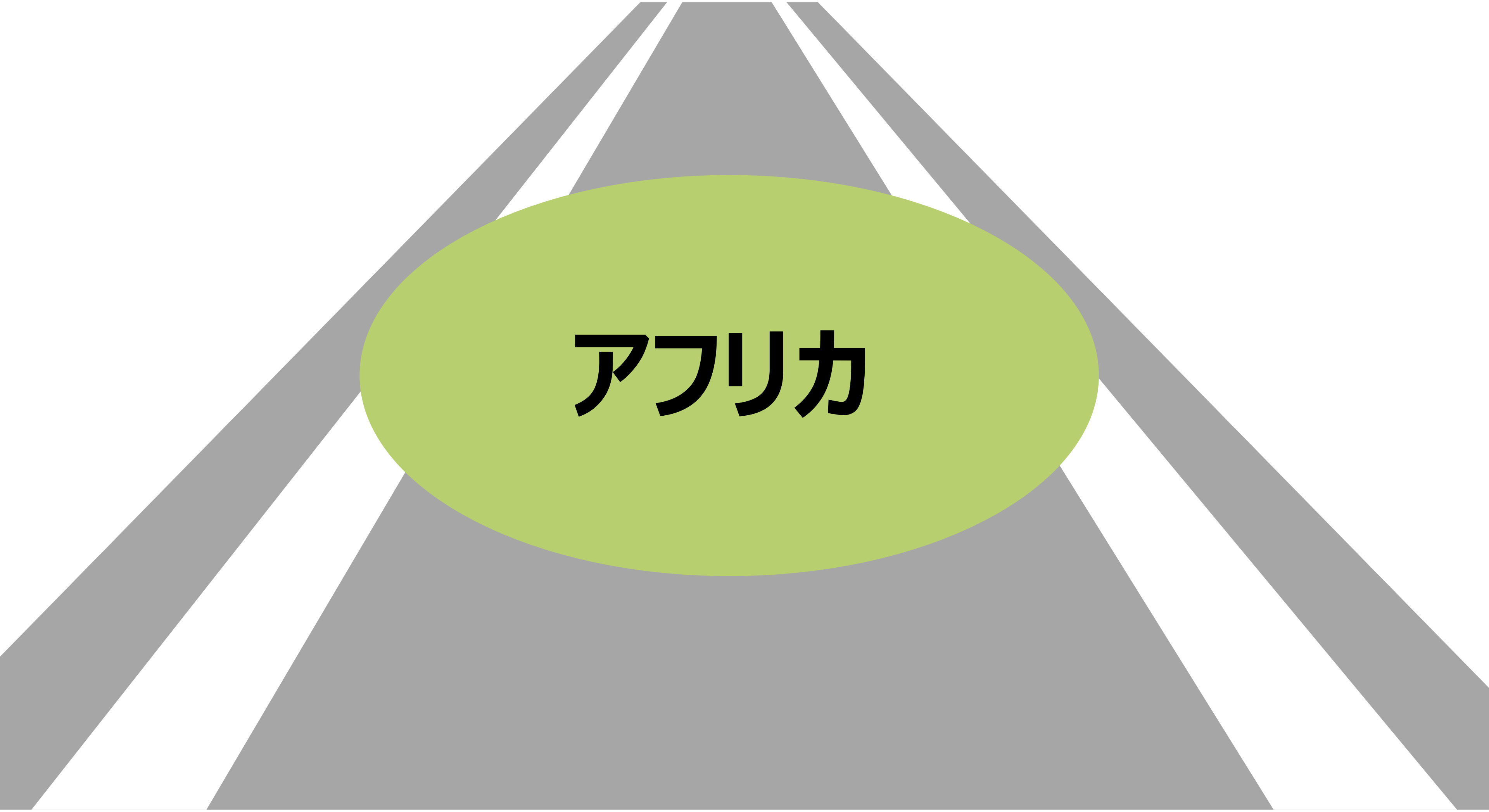
ユーラス六ヶ所村ソーラーパーク(青森県)

風力発電事業（エジプト）

ノイファット水力発電所（ベトナム）

当社の重点戦略

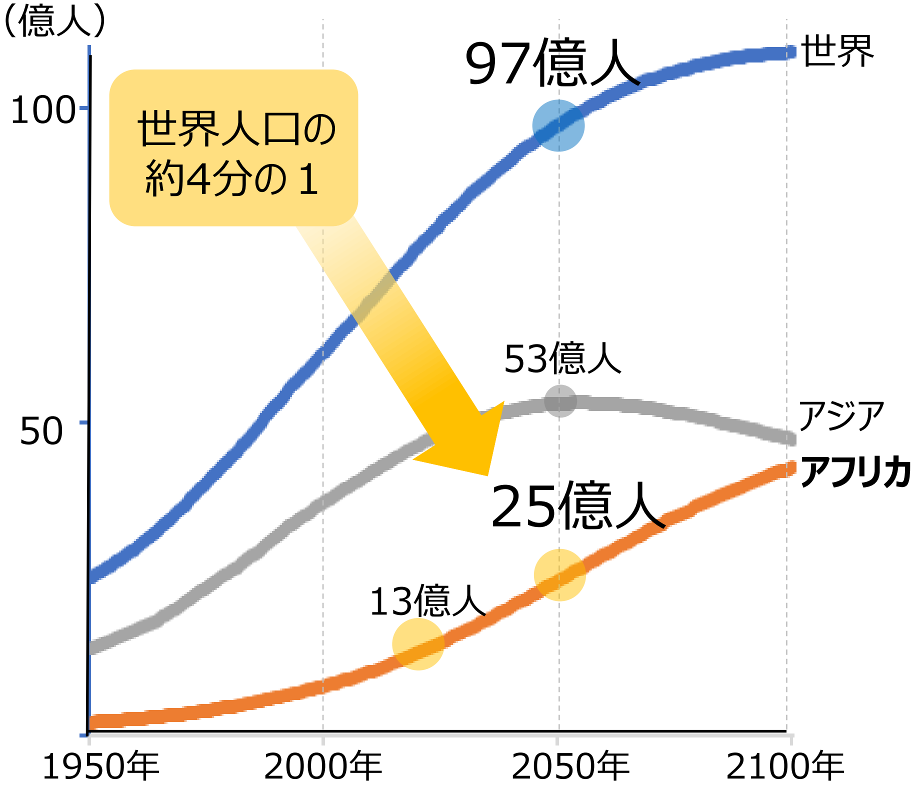
Be the Right ONE



アフリカ

アフリカのポテンシャル

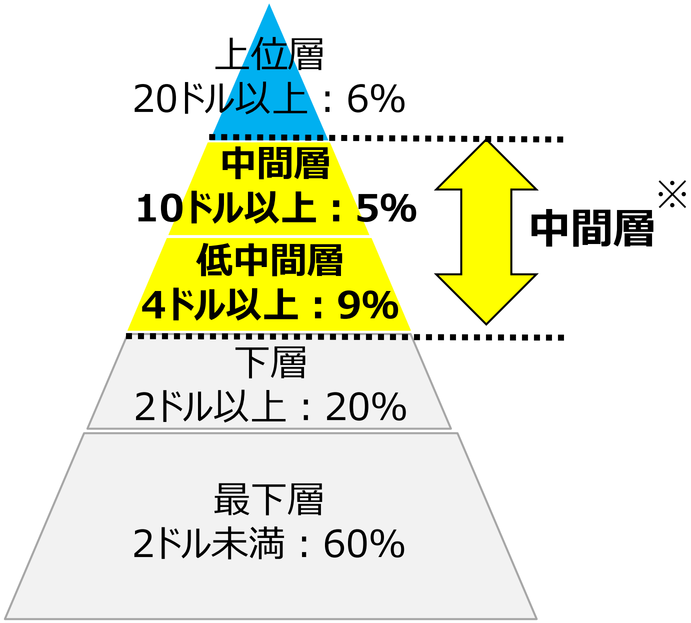
急速な人口増加



出典:United Nations
″ World Population Prospects 2019″

拡大する中間層

<一日平均所得額>

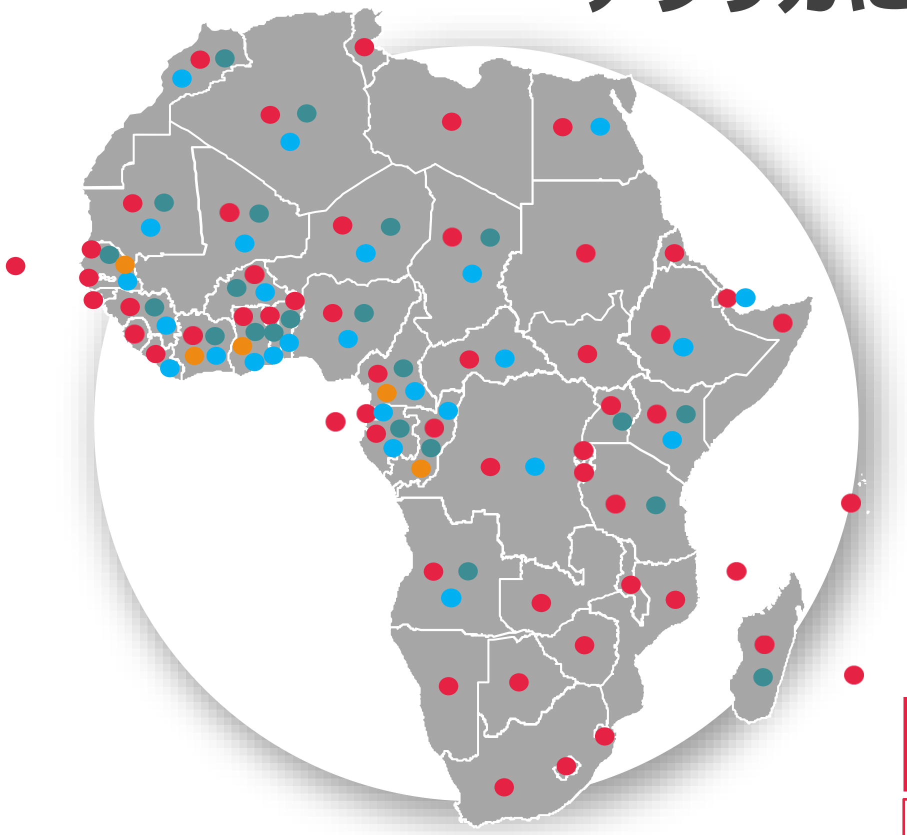


※アフリカにおける中間層：
1日当たり4～20ドル消費可能な所得層

出典：Based on African development bank
(data 2015)

アフリカ

WITH AFRICA FOR AFRICA



アフリカにおけるプレゼンスNo.1

アフリカ全54カ国でネットワーク

グループ企業155社

従業員約22,000名

主要4事業と展開国（22年10月末時点）

モビリティ	ヘルスケア	消費財	電力・インフラ・テクノロジー
54	22	5	26

アフリカ

バリューチェーンの拡大による事業成長と長期的な価値を創造

生産事業
（川上）

現地生産への挑戦
« Made in Africa »

TOYOTA

propharmal
ma phar
eurapharma

BRASSIVOIRE
BRASCO
BRASSERIES DU CONGO

輸入・卸売・物流

既存コアビジネス

モビリティ

サブサハラの
マーケットリーダー
（B2B、B2G）

ヘルスケア

モロッコ、
サブサハラ、FOTの
マーケットリーダー

消費財

FMCG と
ビール市場への
チャレンジ

電力・インフラ・
テクノロジー
ICT と
エレベーター事業への
チャレンジ
（B2B とB2G）

リテール事業
（川下）

リテール分野の発展、
アフリカ事業の
更なる成長へ

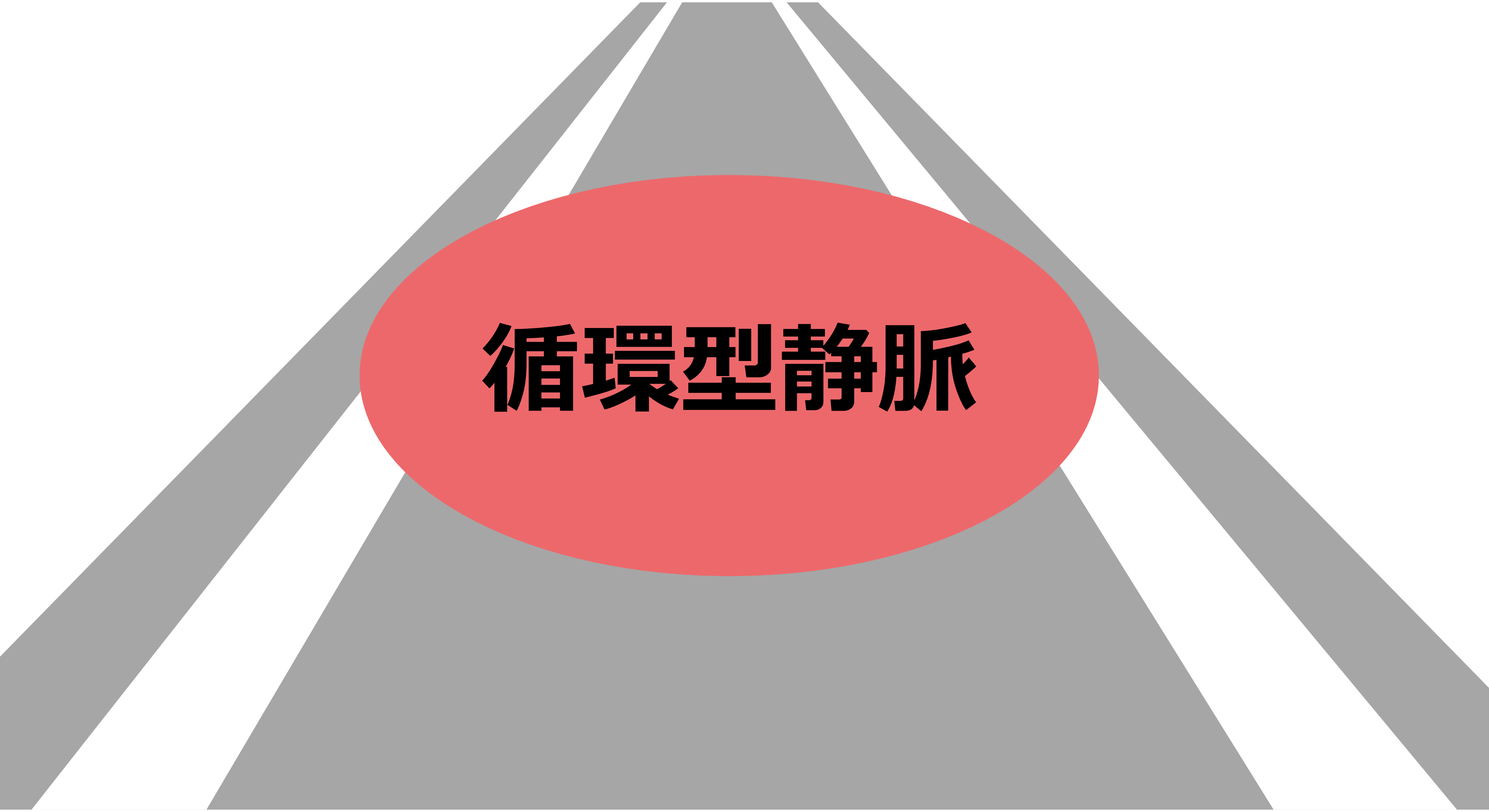
cfao
MOTORS SOUTH AFRICA

Goodlife
Pharmacy Health Beauty

Carrefour
Carrefour market
Supeco
Des économies tous les jours
PLAYCE
YAOUNDÉ
VOTRE RENDEZ-VOUS SHOPPING

当社の重点戦略

Be the Right ONE



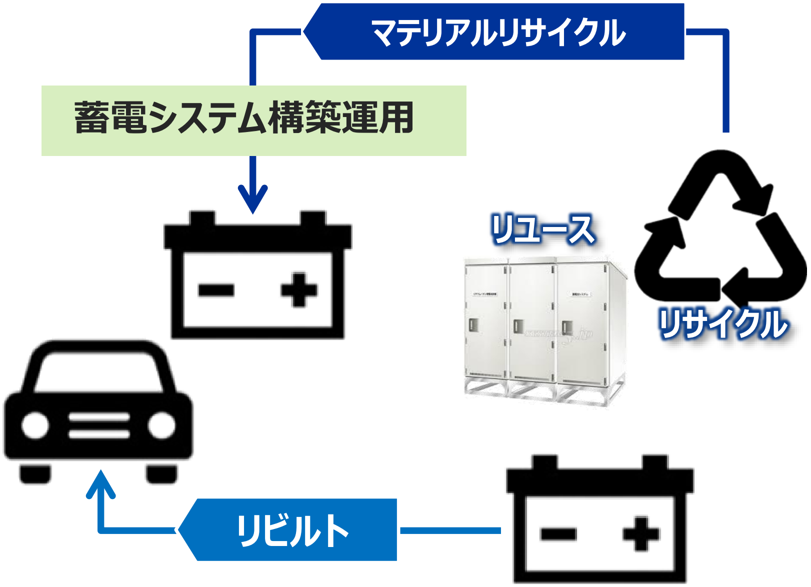
循環型静脈

自動車リサイクル事業による、脱炭素化ソリューションの提供

再利用 → 廃車適正処理 → 再資源化 適正処理 → 生産

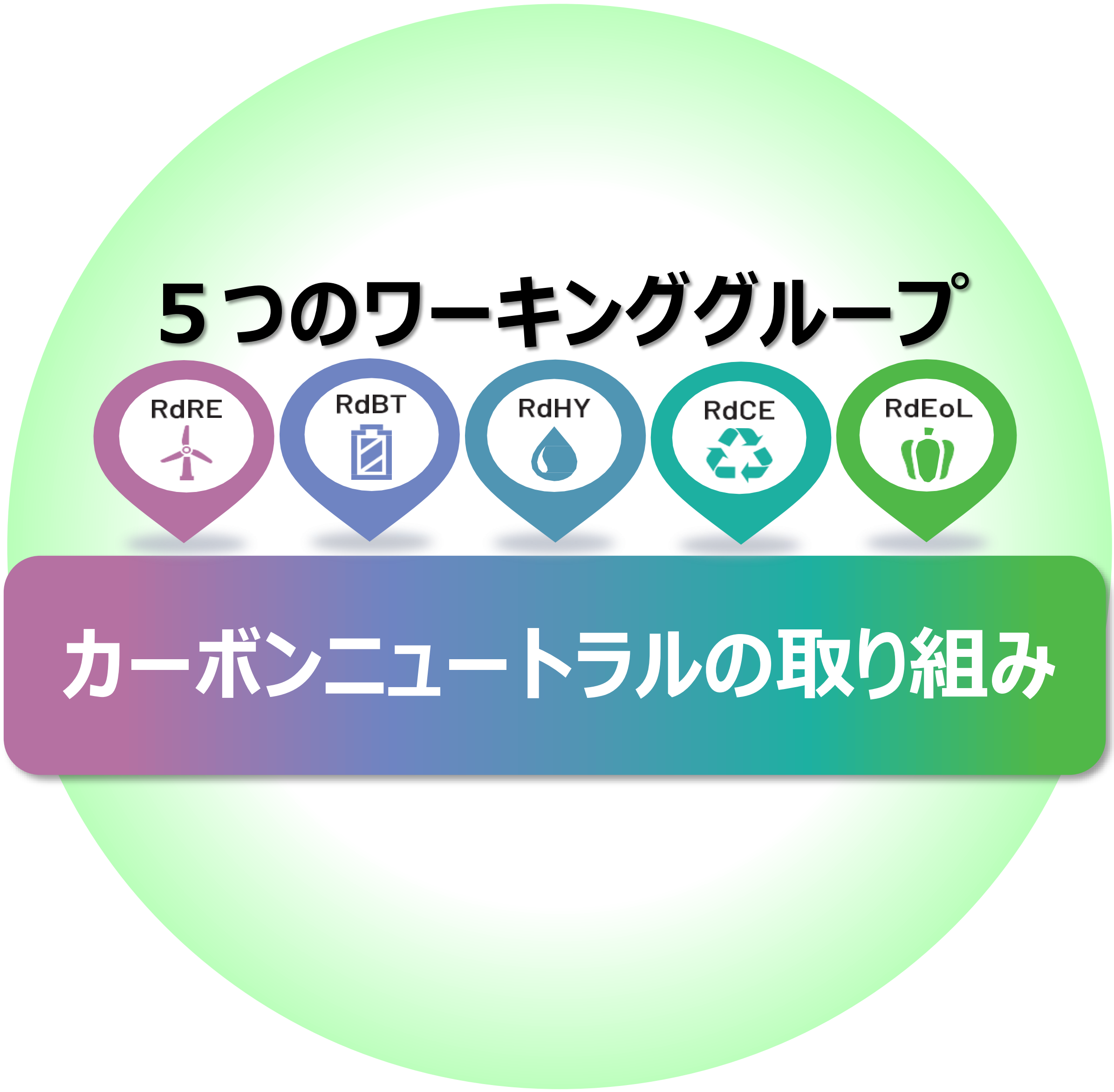
中国での自動車解体リサイクル事業

バッテリー３Ｒ※事業



※３Ｒ・・・リビルト、リユース、リサイクルの略称

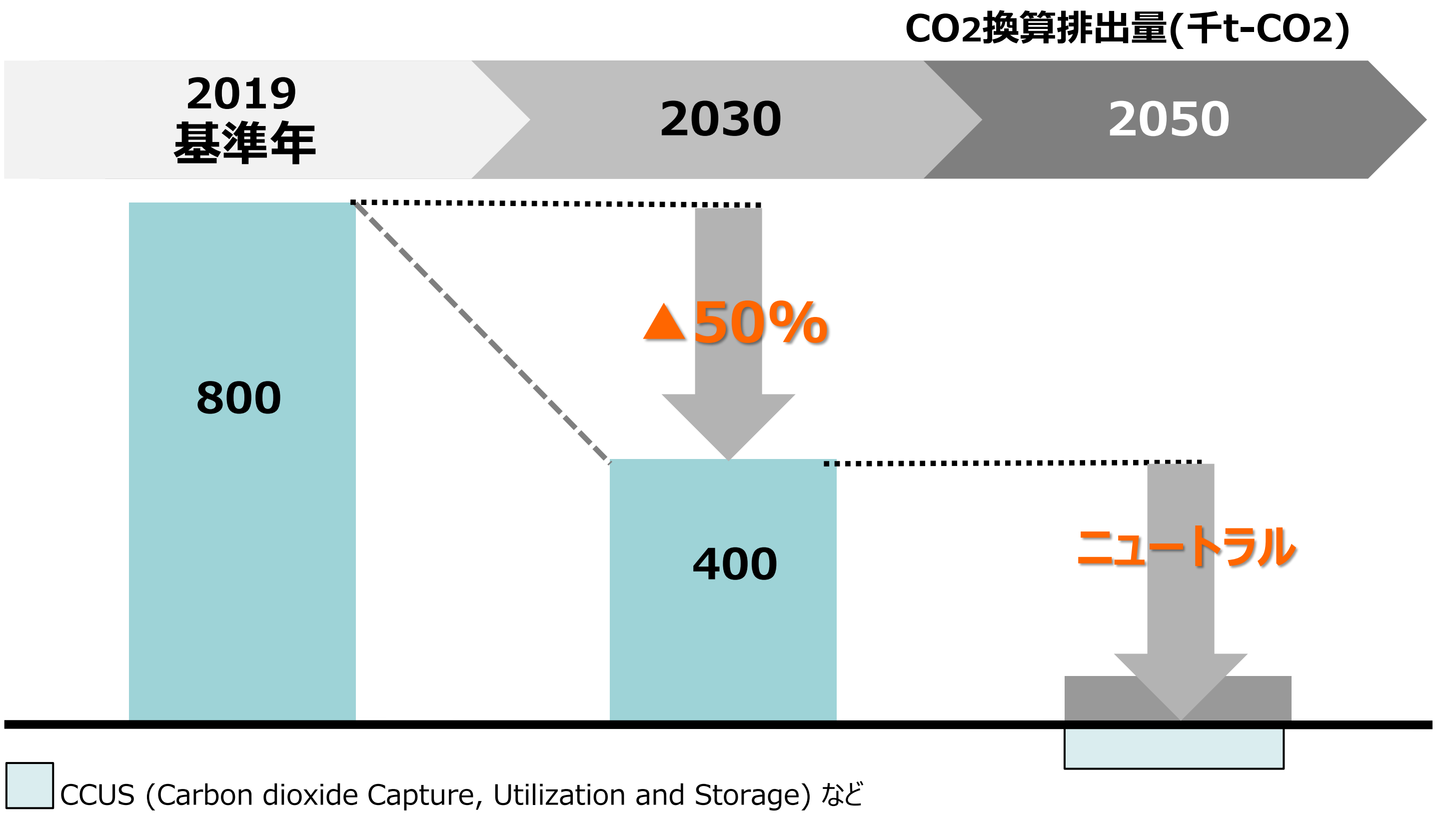
カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み



カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み

Mission	未来の子供たちに、よりよい地球環境を
Vision	リーディング・サーキュラーエコノミー(CE)・プロバイダーへ

豊田通商グループ　カーボンニュートラル宣言



カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み

推進体制

社長・CEO

副社長・CDTO

カーボンニュートラル推進部

・ステークホルダーリレーション

・成長戦略

〈５つのワーキンググループ〉

全本部

デジタル
変革
推進部

ネクスト
モビリティ
推進部

①社内カーボンプライシング制度

②脱炭素設備投資助成制度

例）循環型静脈 × Economy of Life

自動車関連の循環網構築の知見を
プラスチックリサイクルへ活かす

豊通ペットリサイクルシステムズ
(10月3日 本格稼働開始)

“ボトルtoボトル”によるCO_2
削減、循環型社会の実現に貢献

プラニック株式会社
(10月11日本格稼働開始)

日本初比重選別技術により
ミックスプラ等を選別

GHG削減に貢献する事業領域を伸長

WG	投資額
RdRE 再エネ・エネマネ WG	投資額 7,000億円
RdBT バッテリー WG	投資額 4,000億円
RdHY 水素・代替燃料 WG	投資額 2,000億円
RdCE 資源循環・3R WG	投資額 2,000億円
RdEoL Economy of Life WG	投資額 1,000億円

2022年8月1日
ユーラスエナジーホールディングス
100%子会社化
1,850億円の投資実行

2030年までに
1.6兆円以上

目次

Ⅰ． 会社概要～豊田通商とは～

Ⅱ． 業績推移・沿革

Ⅲ． 当社の重点戦略

Ⅳ． 株主還元方針

株主還元方針、2023年3月期　配当予想

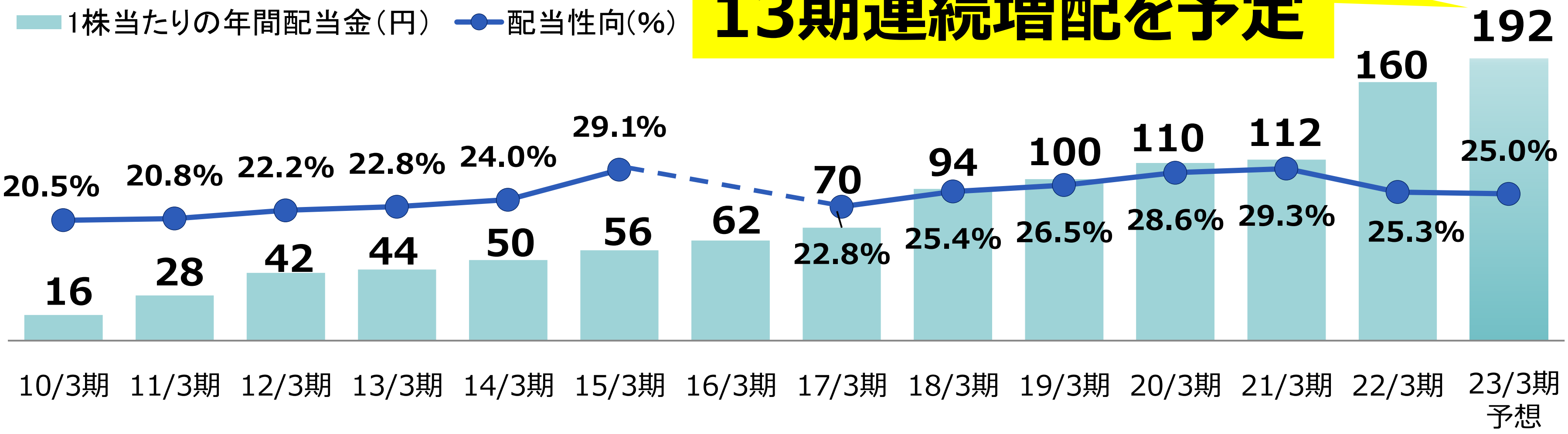
株主還元方針

連結配当性向 **25%以上を基本方針**とし、

安定的な配当の継続並びに**1株当たりの配当の増額**に努めていく

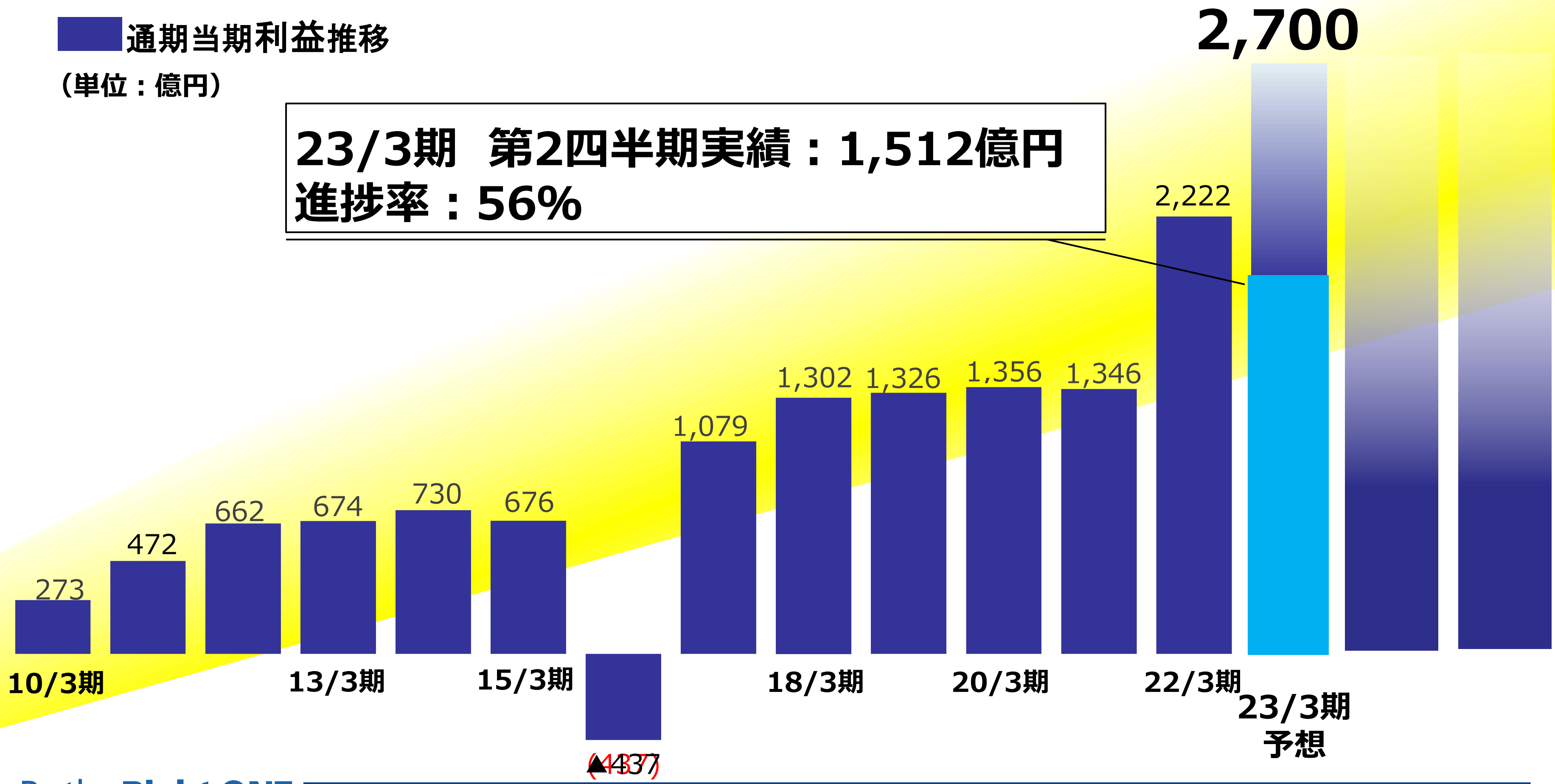
	22/3期 実績	23/3期 予想	増減額
中間	70 円	96 円	+26 円
期末	90 円	96 円	+6 円
年間	160 円	192 円	+32 円

13期連続増配を予定



2023年3月期　連結決算概要

・23年3月期 通期予想を **<u>税後利益 2,700億円　（過去最高）</u>**と想定
・ビジネスモデルの変化による、**<u>実力値の増強</u>**



当社HP紹介

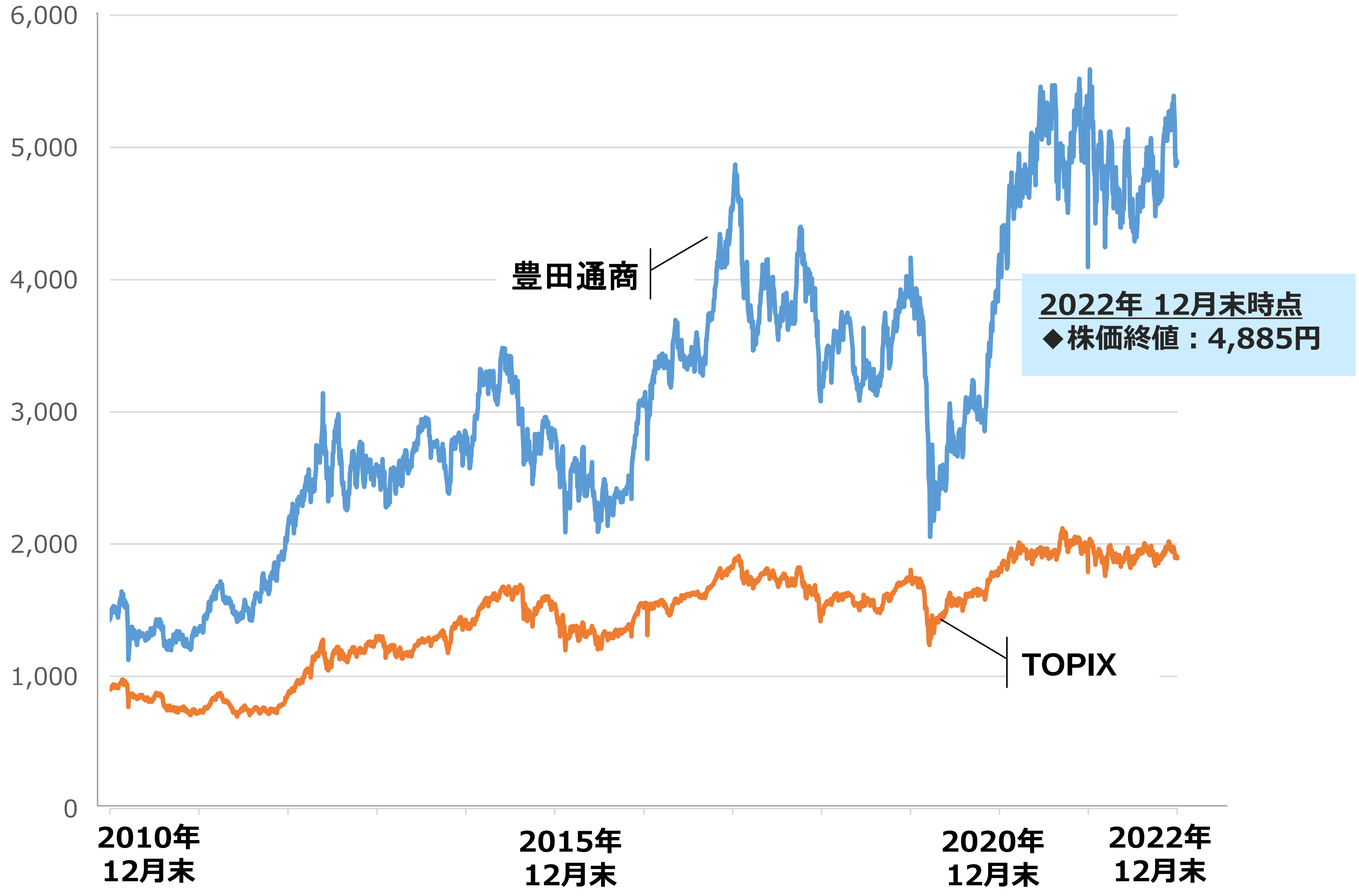
豊田通商 で **検索**

当社個人投資家HPへ是非アクセス下さい！

https://www.toyota-tsusho.com/about/

参考資料

当社株価の推移（2010年～2022年12月末）



外部機関の評価　～財務健全性～

健全な財務状況を裏付ける、格付機関からの高い評価

2023年1月5日時点

総合商社業界	S&P Global Ratings	Moody's	R&I
豊田通商	**A（安定的）**	**A3（安定的）**	**AA-（安定的）**
A社	A（安定的）	A2（安定的）	AA（安定的）
B社	A（安定的）	A3（安定的）	AA（安定的）
C社	A（安定的）	A3（ポジティブ）	AA（安定的）
D社	BBB+（ポジティブ）	Baa1（安定的）	A+（ポジティブ）
E社	BBB＋（安定的）	Baa2（ポジティブ）	A＋（安定的）
F社	BBB-（ポジティブ）	－	A －（安定的）

過去10年間の財務サマリー

（単位：億円）

	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22//3期
売上高/収益※	63,043	77,432	86,634	81,702	57,973	64,910	67,627	66,940	63,093	80,230
当期利益	674	730	675	▲437	1,079	1,302	1,326	1,355	1,346	2,222
総資産	35,923	40,727	45,336	39,521	42,120	43,100	44,414	45,452	52,280	61,431
資本	9,200	11,560	13,044	10,557	12,235	13,621	13,896	13,724	16,580	19,428
ネット有利子負債	9,986	10,889	12,335	11,027	11,019	10,069	9,884	10,324	9,934	12,382
営業CF	1,241	1,339	1,691	3,083	1,597	2,150	2,107	2,678	2,450	501
ROE	9.6%	8.4%	6.4%	▲4.3%	10.8%	11.7%	11.2%	11.3%	10.1%	13.9%
ネットDER	1.31倍	1.12倍	1.10倍	1.24倍	1.05倍	0.86倍	0.83倍	0.86倍	0.68倍	0.71倍

← 日本会計基準 →（13/3期～16/3期）　← 国際会計基準 →（17/3期～22//3期）

※日本会計基準においては売上高、国際会計基準では収益

C/N(カーボンニュートラル)5つのワーキンググループ

RdRE

RdRE (Road Renewable Energy)
再エネ・エネマネ WG

投資額
7,000億円

つくる → 整える → 届ける

再エネの拡大
（一般市場）

再エネ発電の導入拡大
原価低減の推進

風力発電
太陽光発電
水力発電
バイオマス
発電

電気 → 供給 需要 → 電気

各国制度や市場見通しを踏まえて
トータルな脱炭素化を推進

オンサイト/
オフサイト太陽光

自家発・
省エネ機器

蓄電池

電気自動車

水素

創エネ・省エネ・蓄エネ・分散電源

主要顧客G
脱炭素化

主要顧客Gの再エネ化
ニーズに貢献

豊田通商G
脱炭素化推進（自社PJ）

豊田通商全世界電力使用量
50%の再エネ化

C/N(カーボンニュートラル)5つのワーキンググループ

RdBT

RdBT (Road Battery)
バッテリー WG

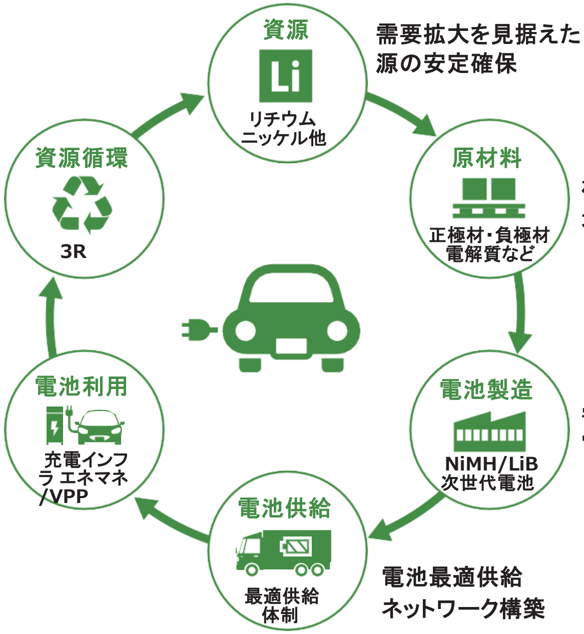
投資額
4,000億円

電動車普及には
様々な課題が存在

車両/電池側の課題
- ●車両（電池）価格
- ●電池の数量確保
- ●電池性能
（航続距離、充電時間など）

インフラ側の課題
- ●充電インフラ
- ●リビルト・リユース・リサイクル

電動車普及のキーとなるバッテリー領域の課題解決を通じてCNに貢献



需要拡大を見据えた 資源の安定確保

材料・部材事業化で
地産地消のSC構築

需要拡大を見据え
電池製造事業への参入

電池最適供給
ネットワーク構築

電動車普及に
向けた取り組み

リビルト・リユース
リサイクル スキーム構築

C/N(カーボンニュートラル)5つのワーキンググループ

RdHY (Road Hydrogen)
水素･代替燃料 WG

投資額
2,000億円

水素･FC※1（燃料電池）利活用

水素社会実現の原単位モデルづくり

大規模な利活用3モデルを
10カ所以上実現

港湾
･米ロサンゼルス港
･英イミンガム港
･国内港湾

公共交通
･欧州（ドイツ･スペインなど）

物流
･欧州（ドイツ･スペインなど）

FC外販

FCパワトレ
外販市場30%の
シェア確保

自社物流

自社トラックの排出量削減

A格トラックの
CO2排出量50%削減
（19年比）

カーボンニュートラル燃料

CN燃料開発･サプライチェーン構築

バイオ由来などを中心に
取り組み加速

（廃棄物から）
バイオメタンなど製造

トレーディング･
オフテイク

工場･産業用途

※1:Fuel Cell

C/N(カーボンニュートラル)5つのワーキンググループ

RdCE (Road Circular Economy) 資源循環・3R WG

投資額 2,000億円

脱炭素目線での資源循環

再資源化へのチャレンジ

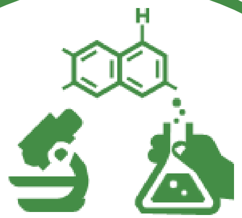
- ●希少金属 ・・・・・・Co・Ni・Li・Cu
- ●プラスチック・・・・・・マテリアル・ケミカルリサイクル
- ●再エネ機器 ・・・・・CFRP※1・太陽光パネル

2次利用の開発

- ●リユース・リマニュファクチャリング

※1:Carbon Fiber Reinforced Plastics
（炭素繊維強化プラスチック）

減らす → なくす → 創る



サーキュラーエコノミーイノベーションセンター

サーキュラーエコノミー関連技術の手の内化

CO_2の回収・利活用

CCU※2の技術開発と社会実装

- ●用途開発と仲間づくり

廃棄物からのエネルギー回収

- ●バイオガス発電

代替素材の開発

- ●バイオマスプラ

※2:Carbon dioxide Capture and Utilization
CO2が大気中に排出される前に回収して利用する技術

脱炭素からの新たな価値創造

『コトづくり』

- ●CO_2削減量を価値化した3R事業開発

静脈事業プラットフォーム構築

- ●静脈事業データの価値化とサービス提供

C/N(カーボンニュートラル)5つのワーキンググループ

RdEoL

RdEoL (Road Economy of Life) Economy of Life WG

投資額 1,000億円

アグリビジネスを通じたCCUS※1

環境保全型農業
へのリード
→Green Grain※2販売

植林、森林再生と併せて
カーボンクレジット
集荷・販売（ブラジル）

CO_2 ⇄ CO_2

食ビジネスのCN＆リニューアル

植物肉加工
食品製造

食品包材の
バイオマス
プラスチック化

新技術を活用した
食品加工プロセスの
脱炭素化

EoL領域ビジネスのCE化

ペットボトルの
水平リサイクル事業

環境負荷の大きい
アパレルでCE実現

※1:Carbon dioxide Capture、Utilization and Storage、分離回収・貯留したCO_2を有効利用する取り組み　※2:環境に配慮して生産・集荷した穀物

Be the Right ONE

豊田通商株式会社

豊田通商株式会社　財務部　ＩＲ室

E-mail: ttc_ir@pp.toyota-tsusho.com

Tel: 03-4306-8201

- 当プレゼンテーション資料は、豊田通商株式会社およびそのグループ会社の戦略・経営計画など、歴史的事実でない「将来に関する見通し」を含んでいます。 係る将来に関する見通しは、現時点において入手可能な期待・見積り・予想に基づいており、その性質上、これらの期待・見積り・予想はリスクや不確実性を内在しております。 従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果、財務内容等は、係る将来に関する見通しにおいて明示的または黙示的に示される情報と大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。 当社は、係る将来に関する見通しについて情報を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。
- 当プレゼンテーション資料は、有価証券の募集・売出、販売、勧誘を目的とするものではありません。 投資・その他のご判断にあたり、当資料の内容に全面的に依拠することはお控えくださいますよう、 お願い申し上げます。